



イラスト/西村キヌ

「子どもゆめ基金」について	1
「子どもゆめ基金」の概要	2
子どもゆめ基金の申請をお考えの方へ	
－申請までの流れ－	4
子どもゆめ基金ガイドの活用方法	
－申請のワンポイントアドバイス－	5
子どもゆめ基金助成活動情報サイトのご紹介	6
令和元年度助成活動事例	
○子供の体験活動	
【自然体験】	
磐梯自然教室	
実施団体/一般財団法人横浜市母子寡婦福祉会	8
交野子ども自然体験クラブ2019	
実施団体/枚方・交野地区自然体験クラブ	10
【科学体験】	
科学ヘジャンプ・イン・北海道2019	
実施団体/科学ヘジャンプ・イン・北海道実行委員会	12
【交流体験】	
青葉おばけやしきプロジェクト	
実施団体/NPO 法人あおば学校支援ネットワーク	14
カマクラ図工室 山と海2019	
実施団体/カマクラ図工室	16
【社会奉仕】	
きれいな海を守ろう、楽しく海岸清掃&サンドアート!	
実施団体/特定非営利活動法人 ひらど海てらす	18
【職場体験】	
スマイルキッズタウン2019	
実施団体/特定非営利活動法人 スマイルプロジェクト	20
【その他の体験】	
災害チャレンジキャンプ	
実施団体/日本ボーイスカウト秋田県連盟	22
○子供の読書活動	
【読書活動】	
読書デザイン ー子どもに本を届けるー	
実施団体/特定非営利活動法人 名古屋おやこセンター	24
子ども向け教材開発・普及活動への申請をお考えの方へ...	26
令和元年度 普及啓発事業の事例	
ミクロネシア諸島自然体験交流事業	28
「体験の風をおこそう」運動とは	30
申請・採択状況	32
子どもゆめ基金へのご協力を	
「子どもゆめ基金」へご寄附いただいた皆様 ... 裏表紙	

「子どもゆめ基金」について

「子どもゆめ基金」は、衆議院・参議院の超党派の国会議員により構成される「子どもの未来を考える議員連盟」が子供の未来のために有意義な基金の創設を発意し、平成13年4月に創設されたものです。

かつての子供たちは、自然の中や地域において様々な自然体験・社会体験を日常的に積み重ねて成長する機会に恵まれていました。しかしながら、今の子供たちをめぐる環境は、心や体を鍛えるための負担がかからない「無重力状態」であるとともに、保護者の経済力や保護者自身の経験の多寡、学校の判断によって、体験活動の機会に「体験格差」が生じているとの指摘もあります。（平成25年度中教審答申より）

体験活動に関する調査（国立青少年教育振興機構「子どもの体験活動の実態に関する調査研究」「青少

年の体験活動等と自立に関する実態調査」）では、「子供の頃の体験活動が豊富な大人ほど、やる気や生きがいを持っている人が多い」、「体験を多く行っている青少年ほど、他者への思いやりや積極性などの自立的行動習慣が身につけており、自己肯定感も高い傾向にある」など、子供の頃の体験は、その後の人生に影響することが示唆される結果が出ています。

体験活動・読書活動の推進に向けた様々な取り組みが求められている中、子どもゆめ基金は、未来を担う夢をもった子供の健全育成を推進するため、地域の草の根団体等が実施する様々な体験活動や、特色ある新たな取り組み、体験活動・読書活動の振興を図る取り組みの裾野を広げる様な活動を中心に、支援を行っています。

民間等からの寄附

独立行政法人
国立青少年教育振興機構
子どもゆめ基金

助成

助成



子供の体験活動を支援



子供の読書活動を支援

「子どもゆめ基金」の概要

●助成金の交付

●助成の対象となる活動

子供を対象とする体験活動や読書活動

子供の体験活動

- ・キャンプや自然観察などの自然体験活動
- ・科学実験教室などの科学体験活動
- ・異年齢や異世代、地域間等の交流を目的とした活動
- ・清掃活動等の社会奉仕体験活動
- ・地域の商店街・農業・漁業等の職場体験活動

子供の読書活動

- ・読み聞かせ会、読書会活動

子供を対象とする体験活動や読書活動を支援する活動

- ・フォーラムの開催、指導者養成

子供向け教材開発・普及活動

- ・インターネット等で使用可能なデジタル教材を開発し普及する活動

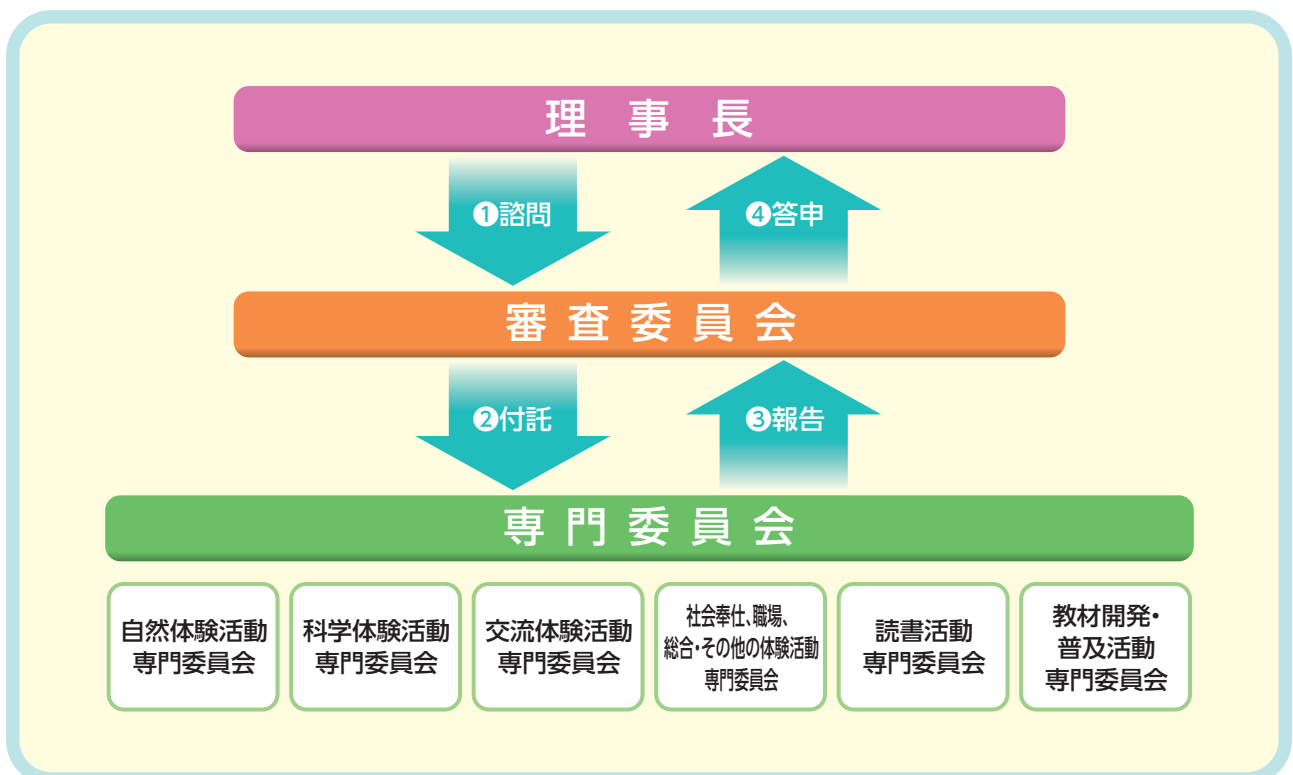
●助成の対象となる団体

青少年教育に関する団体（公益財団法人、公益社団法人、一般財団法人、一般社団法人、特定非営利活動法人、法人格を有しないが青少年のために活動する団体）

●助成金の額と審査方法

子どもゆめ基金では、体験活動等の分野において実務経験を持ち、青少年教育に高い識見を有する委員で構成する「子どもゆめ基金審査委員会」を設置し、審査を行います。

その審査にあたっては、各団体から提出された申請書を専門的見地から合議により評価し、採択する活動及び助成金額を決定します。



● 経済的に困難な状況にある子供の体験活動や読書活動への助成

● 背景

我が国の子供の相対的貧困率は、年々上昇しており、世代を超えた「貧困の連鎖」が指摘されるなど、子供の貧困は喫緊の課題であるとして、平成26年8月に「子供の貧困対策に関する大綱」が閣議決定され、国において総合的な取組が推進されることとなりました。このような国の動向を踏まえ、子どもゆめ基金では経済的に困難な状況にある子供たちを対象に以下の取組を始めました。

● 取組の概要

民間団体が、経済的に困難な状況にある子供を対象とした体験活動や読書活動を行う場合、通常は助成対象外とされている参加者の交通費・宿泊費などの自己負担経費について、特に助成の対象とすることで、参加する子供の負担が軽減されるようにしました。その結果、令和2年度子どもゆめ基金助成活動には、128件の申請があり、このうち貧困対策に適合した申請を106件採択しました。（一次募集分のみ）

● 助成の対象となる活動

この助成の対象となる活動は、以下1、2のとおりです。

1. 民間の児童養護施設や母子生活支援施設及び一般財団法人全国母子寡婦福祉団体協議会並びにこれに加盟する母子福祉団体が行う体験活動や読書活動
2. 上記1. 以外の民間の機関・団体が、経済的に困難な状況にある子供の健やかな育成を目的として、児童養護施設や母子生活支援施設、地方公共団体などと協力して行う体験活動や読書活動

詳しくは、子どもゆめ基金募集案内をご覧ください。子どもゆめ基金部助成課までお問い合わせください。

● 普及啓発

子どもゆめ基金では、子供の体験活動や読書活動の振興を図るための普及啓発を行っています。（子どもゆめ基金ガイドの作成、普及啓発事業の実施等）



子どもゆめ基金の申請をお考えの方へ —申請までの流れ—

初めての団体、小さな団体のみなさまも、ご応募お待ちしております。

企画立案はどうすれば…

「どんな活動があるのかな？」

→子どもゆめ基金ガイドを読んで、これから企画する活動の参考にしてみましょう。

◎過去の子どもゆめ基金ガイドもホームページからご覧になれます。

URL : <https://yumekikin.niye.go.jp/download/index.html>



実際に申請してみたい…

「子どもゆめ基金のことがもっと知りたい！」

→子どもゆめ基金募集説明会に参加してみませんか？

◎毎年9～11月にかけて全国40都市以上で実施しています。会場では、申請のガイダンスや個別質問回答コーナーを設けています。

子どもゆめ基金部主催説明会

2020年9月11日(金) 国立オリンピック記念青少年総合センター (東京都渋谷区) 13:30～

2020年10月2日(金) 天満研修センター (大阪府大阪市) 13:30～

2020年10月9日(金) 国際ファミリープラザ (鳥取県米子市) 13:30～

※新型コロナウイルス感染症の影響により、中止となる場合もございます。詳しくは子どもゆめ基金ホームページをご確認ください。

URL : <https://yumekikin.niye.go.jp/>

◎さらに、申請にあたってわからないことや相談したいことがあれば、子どもゆめ基金までご連絡ください。(メールでのお問い合わせ : yume@niye.go.jp、電話でのお問い合わせ : 0120-57-9081月～金 9:00～17:45)

募集期間は？

「子どもゆめ基金の募集期間」

一次募集期間 郵送申請 令和2年10月1日(木)～11月10日(火) 消印有効

電子申請 令和2年10月1日(木)～11月24日(火) 17:00締切

二次募集期間 郵送申請 令和3年5月1日(土)～6月15日(火) 消印有効

電子申請 令和3年5月1日(土)～6月29日(火) 17:00締切

◎二次募集は市区町村規模・申請額50万円以下(様式B)のみとなります。

◎直接持参する場合は、平日(土日祝除く)9:00～17:45まで受け付けます。

◎初めて電子申請される場合は、申請の前にID申請が必要となります。

募集案内や申請書は、子どもゆめ基金ホームページからダウンロードできます。従来の郵送による申請に加え、電子申請システムを利用した申請も可能です。一度電子申請で手続をとると、実績報告書の作成や次回以降の申請も簡単にできます。



教材開発・普及活動に申請をお考えの方は、26ページへ。

子どもゆめ基金ガイドの活用方法 —申請のワンポイントアドバイス—

活動例を読んだら団体のメンバーと相談して、企画してみましょう！

STEP4

令和元年活動実績事例 子供の体験活動

STEP3

警備自然教室
実施団体／一般財団法人 横浜市母子寡婦福祉会

●活動期間／7月13日（土）～7月15日（月） 実施1回 2泊3日
●活動場所／鎌倉代天神社、天鏡池、国立若葉青少年交流の家
●募集地域／横浜市
●募集対象／小学生（1～6年生）、中学生、高校生、保護者
●募集方法／不特定（横浜市のみ）募集要項をホームページに掲載
●構成員数／10人

STEP1

活動のねらいとポイント

自然豊かな環境で、鳥のつかみ取りや野外炊飯を実施することにより食育及び食の安全を体験させます。また、仲間と共に汗を流すことで自然体験を通して成長を促しています。

具体的なプログラム名	主なポイント
カヌー体験	船と子ども、水がなかなかできないダイナミックな活動（カヌー体験）をすることで、挑戦することの楽しさや船の構造などを学ぶ。また、親子や仲間と一緒に体験することの大切さを学ぶ。
天鏡池ハイキング	自然豊かな環境の中をハイキングをしながら、自然の美しさを感じる。また、仲間と協力して自然の恵みを生かして生活する楽しさを伝える。その中で、自然や生命の大切さを学ぶ。
野外炊飯（カレー）	火のこし方から調理の仕方、調理の後の片付けまでを工夫・協力しながら体験する。生活力と共に調理力を養う。

【安全対策】参加者は全員、保険に加入。事前に無病状と連絡を取り、ハイキングのコースの危険箇所を確認。必要に応じて、緊急時に対応できるように準備しておく。また、各参加者が事前に、参加者に注意喚起の徹底をする。

【健康確保】参加者は各自体調（コロナ）を事前に確認し、体調不良（虫よけスプレー）の持参や食中毒防止のための対策（お弁当）などを実施し注意喚起をする。高熱発、嘔吐や下痢が症状でキャンセル申請。

—自然体験—

STEP2

活動の成果と課題

無病の時期にもかかわらず、予定通りの野外の活動ができ、意欲的に参加することができました。カヌー体験は、親子で1つのチームになり、船中の役割に仲間と協力し合いながらうまく進めるようになったことで、楽しむとともに達成感も生まれました。自然体験では、自然の恵みを学び、思い思いの収穫を食べて仲間と喜びを分かち合いました。天鏡池ハイキングでは、前もって準備していたお弁当を食べながら、朝の涼風を味わったことなど、子どもたちも楽しそうに活動していました。今後の課題としては、開催場所などを工夫して、大勢の方に参加していただくことも考えていきたいです。

STEP4

活動の日程・内容

期日	時間	内容
7/13	7:30	集合準備
7/13	8:30	集合準備
7/13	9:00	集合準備
7/13	9:30	集合準備
7/13	10:00	集合準備
7/13	10:30	集合準備
7/13	11:00	集合準備
7/13	11:30	集合準備
7/13	12:00	集合準備
7/13	12:30	集合準備
7/13	13:00	集合準備
7/13	13:30	集合準備
7/13	14:00	集合準備
7/13	14:30	集合準備
7/13	15:00	集合準備
7/13	15:30	集合準備
7/13	16:00	集合準備
7/13	16:30	集合準備
7/13	17:00	集合準備
7/13	17:30	集合準備
7/13	18:00	集合準備
7/13	18:30	集合準備
7/13	19:00	集合準備
7/13	19:30	集合準備
7/13	20:00	集合準備
7/13	20:30	集合準備
7/13	21:00	集合準備
7/13	21:30	集合準備
7/13	22:00	集合準備
7/13	22:30	集合準備
7/13	23:00	集合準備
7/13	23:30	集合準備
7/13	24:00	集合準備
7/13	24:30	集合準備
7/13	25:00	集合準備
7/13	25:30	集合準備
7/13	26:00	集合準備
7/13	26:30	集合準備
7/13	27:00	集合準備
7/13	27:30	集合準備
7/13	28:00	集合準備
7/13	28:30	集合準備
7/13	29:00	集合準備
7/13	29:30	集合準備
7/13	30:00	集合準備
7/13	30:30	集合準備
7/13	31:00	集合準備
7/13	31:30	集合準備
7/13	32:00	集合準備
7/13	32:30	集合準備
7/13	33:00	集合準備
7/13	33:30	集合準備
7/13	34:00	集合準備
7/13	34:30	集合準備
7/13	35:00	集合準備
7/13	35:30	集合準備
7/13	36:00	集合準備
7/13	36:30	集合準備
7/13	37:00	集合準備
7/13	37:30	集合準備
7/13	38:00	集合準備
7/13	38:30	集合準備
7/13	39:00	集合準備
7/13	39:30	集合準備
7/13	40:00	集合準備
7/13	40:30	集合準備
7/13	41:00	集合準備
7/13	41:30	集合準備
7/13	42:00	集合準備
7/13	42:30	集合準備
7/13	43:00	集合準備
7/13	43:30	集合準備
7/13	44:00	集合準備
7/13	44:30	集合準備
7/13	45:00	集合準備
7/13	45:30	集合準備
7/13	46:00	集合準備
7/13	46:30	集合準備
7/13	47:00	集合準備
7/13	47:30	集合準備
7/13	48:00	集合準備
7/13	48:30	集合準備
7/13	49:00	集合準備
7/13	49:30	集合準備
7/13	50:00	集合準備
7/13	50:30	集合準備
7/13	51:00	集合準備
7/13	51:30	集合準備
7/13	52:00	集合準備
7/13	52:30	集合準備
7/13	53:00	集合準備
7/13	53:30	集合準備
7/13	54:00	集合準備
7/13	54:30	集合準備
7/13	55:00	集合準備
7/13	55:30	集合準備
7/13	56:00	集合準備
7/13	56:30	集合準備
7/13	57:00	集合準備
7/13	57:30	集合準備
7/13	58:00	集合準備
7/13	58:30	集合準備
7/13	59:00	集合準備
7/13	59:30	集合準備
7/13	60:00	集合準備
7/13	60:30	集合準備
7/13	61:00	集合準備
7/13	61:30	集合準備
7/13	62:00	集合準備
7/13	62:30	集合準備
7/13	63:00	集合準備
7/13	63:30	集合準備
7/13	64:00	集合準備
7/13	64:30	集合準備
7/13	65:00	集合準備
7/13	65:30	集合準備
7/13	66:00	集合準備
7/13	66:30	集合準備
7/13	67:00	集合準備
7/13	67:30	集合準備
7/13	68:00	集合準備
7/13	68:30	集合準備
7/13	69:00	集合準備
7/13	69:30	集合準備
7/13	70:00	集合準備
7/13	70:30	集合準備
7/13	71:00	集合準備
7/13	71:30	集合準備
7/13	72:00	集合準備
7/13	72:30	集合準備
7/13	73:00	集合準備
7/13	73:30	集合準備
7/13	74:00	集合準備
7/13	74:30	集合準備
7/13	75:00	集合準備
7/13	75:30	集合準備
7/13	76:00	集合準備
7/13	76:30	集合準備
7/13	77:00	集合準備
7/13	77:30	集合準備
7/13	78:00	集合準備
7/13	78:30	集合準備
7/13	79:00	集合準備
7/13	79:30	集合準備
7/13	80:00	集合準備
7/13	80:30	集合準備
7/13	81:00	集合準備
7/13	81:30	集合準備
7/13	82:00	集合準備
7/13	82:30	集合準備
7/13	83:00	集合準備
7/13	83:30	集合準備
7/13	84:00	集合準備
7/13	84:30	集合準備
7/13	85:00	集合準備
7/13	85:30	集合準備
7/13	86:00	集合準備
7/13	86:30	集合準備
7/13	87:00	集合準備
7/13	87:30	集合準備
7/13	88:00	集合準備
7/13	88:30	集合準備
7/13	89:00	集合準備
7/13	89:30	集合準備
7/13	90:00	集合準備
7/13	90:30	集合準備
7/13	91:00	集合準備
7/13	91:30	集合準備
7/13	92:00	集合準備
7/13	92:30	集合準備
7/13	93:00	集合準備
7/13	93:30	集合準備
7/13	94:00	集合準備
7/13	94:30	集合準備
7/13	95:00	集合準備
7/13	95:30	集合準備
7/13	96:00	集合準備
7/13	96:30	集合準備
7/13	97:00	集合準備
7/13	97:30	集合準備
7/13	98:00	集合準備
7/13	98:30	集合準備
7/13	99:00	集合準備
7/13	99:30	集合準備
7/13	100:00	集合準備

活動の成果と課題

無病の時期にもかかわらず、予定通りの野外の活動ができ、意欲的に参加することができました。カヌー体験は、親子で1つのチームになり、船中の役割に仲間と協力し合いながらうまく進めるようになったことで、楽しむとともに達成感も生まれました。自然体験では、自然の恵みを学び、思い思いの収穫を食べて仲間と喜びを分かち合いました。天鏡池ハイキングでは、前もって準備していたお弁当を食べながら、朝の涼風を味わったことなど、子どもたちも楽しそうに活動していました。今後の課題としては、開催場所などを工夫して、大勢の方に参加していただくことも考えていきたいです。

STEP1 「活動の目的」を考えてみましょう

1. 活動を通じて、参加者に伝えたい・感じてほしい・身につけてほしいことは何でしょうか。
2. 活動の目的やねらいを達成するためにどのような工夫ができるでしょうか。
3. 目的やねらいを達成する内容・ポイントは、活動プログラムのどの部分に盛り込みますか。

STEP2 「活動終了後の成果」を考えてみましょう

1. STEP1で考えた、活動の目的・ねらいが、どのように参加者の成長につながるかイメージしてみましょう。
2. 参加者の成長から、どのようなことが得られるでしょうか。団体の成長・発展について考えてみましょう。

STEP3 具体的に活動内容を考えてみましょう

1. 参加者の興味を引きそうな活動名を考えてみましょう。
2. 活動の対象者・募集人数・日程・活動の概要を考えてみましょう。

STEP4 「活動プログラム」の予定を組んでみましょう

1. STEP1～3で考えた内容を取り入れて、活動プログラムの1日の流れを考えてみましょう。
2. プログラム全体の運営は誰が担当するか、外部指導者は誰に依頼するか考えてみましょう。
3. 参加者の安全・体調管理にも留意しながら、タイムスケジュールを作成してみましょう。

5

子どもゆめ基金助成活動情報サイトのご紹介

『子どもゆめ基金助成活動情報サイト』
<https://pr.yume.niye.go.jp>



こんな方にオススメ！

- 子どもゆめ基金助成活動情報サイトでは、北海道から沖縄まで当該年度に採択された助成活動がすべて掲載されています。その数約 5,000 件。
※助成団体からチラシが提出され承認されたら、掲載になります。
- 全国各地の多種多様なジャンルの体験活動や読書活動、フォーラム、指導者養成活動を見つけることができます。
- 次の方々にオススメです。
 - ・ 子供に様々な体験活動をさせたい方
 - ・ 助成金申請を検討している方
 - ・ 他の助成団体の活動を見てみたい方
 - ・ 自分自身の興味・関心を深めたいという方
- 参加費のかからない活動も多数あります。
- 子どもゆめ基金助成活動の中から、普段の生活の中ではなかなか味わうことのできない感動や、一生心に残る体験をしてみたいかたがでしょうか。

ポイントは？

- キャンプなどの自然体験活動、実験教室やものづくり・プログラミングのワークショップなどの科学体験活動、異年齢・異世代・地域間等の交流活動、おはなし会やストーリーテリングなどの読書活動、その他さまざまな遊びや体験から、好きな活動を選ぶことができます。
- スマートフォン、タブレットからも利用可能です。
- 活動の分野・種類など、さまざまな検索方法で、やってみたい体験を簡単に探すことができます。

検索方法は？

子どもゆめ基金
National Institution for Youth Education
助成活動情報サイト

さがして! 体験しよう!
子どもゆめ基金は 様々な体験活動を助成しています。
すぐに参加可能な活動を多数掲載しています。
[興味のある方は各活動の問い合わせ先へ!](#)

Q 条件やキーワードでさがす

開催地域を選択 1

開催日 年/月/日 2 ~ 年/月/日

活動の分野 すべて 自然体験活動 科学体験活動 交流を目的とする活動 社会奉仕体験活動 職場体験活動 総合・その他の体験活動 読書活動 3

活動の種類 すべて 子どもを対象とする活動 フォーラム等普及活動 指導者養成 経済的に困難な状況にある子どもを対象とする活動

募集対象 未就学児 小学生 中学生 高校生 大学生等 一般人 保護者 その他 4

参加費 すべて 無料 有料 5

検索キーワード

並び順 開催場所 開催日 参加費 昇順 降順

リセット 検索

①開催地域

ブロック、都道府県から選ぶことができます。

②開催日

クリックするとカレンダーが表示されますので、開催日を指定することができます。

③活動の分野・種類

助成の対象となる活動の分野・種類から選ぶことができます。

④募集対象

活動への参加対象を選ぶことができます。(複数選択可)

⑤参加費

無料・有料から選ぶことができます。

気になる項目にチェックを入れていただき、『検索』ボタンを押すと、検索結果が表示されます。

磐梯自然教室 実施団体／一般財団法人 横浜市母子寡婦福祉会

- 活動期間／7月13日（土）～7月15日（月） 宿泊1回 2泊3日
- 活動場所／猪苗代湖天神浜、天鏡台、国立磐梯青少年交流の家
- 募集地域／横浜市
- 募集対象／小学生（1～6年生）、中学生、高校生、保護者
- 募集方法／その他（横浜市のひとり親家庭対象のメールマガジン）
- 構成員数／10人



カヌーで出発！



ジャガイモの皮むきに挑戦！

●活動のねらいとポイント

自然豊かな福島で、魚のつかみ取りや野外炊飯を実施することにより食育及び食の安全を体験させます。また、仲間と共に川や山などでの自然体験をさせることをねらいとしています。

具体的なプログラム名	主なポイント
カヌー体験	母と子では、なかなか体験できないダイナミックな活動（カヌー体験）をすることで、挑戦することの楽しさや湖の怖さなどを学ぶ。また、親子や仲間と一緒に体験することで協力することの大切さを学ぶ。
天鏡台ハイキング	普段見ることのない大自然の中をハイキングをしながら、自然の美しさを感じるとともに熊などの脅威と共存して生活する厳しさを知る。その中で、自然や生命の尊さ大切さを学ぶ。
野外炊飯（カレー）	火のおこし方から調理の仕方、最後の後片付けまでを工夫・協力しながら体験する。生活力と共に協調性を育む。

●参加者の安全対策・健康管理

【安全対策】 参加者は全員、保険に加入。事前に施設等と連絡を取り、ハイキングのコースの危険個所の確認や、必要な処置（催行前に熊よけ）を行ってもらう。また、各体験を行う前に、参加者に注意事項の確認をする。

【健康管理】 参加者各自保険証（コピー等）を持参してもらう。また、しおりに常備薬、虫害対策（虫よけスプレーの持参や長袖長ズボンでの参加）などを記載し注意喚起をする。救急箱、熱中症対策でペットボトル準備等。

●活動の日程・内容

月/日	時間帯	プログラム内容
7/13	7:30	桜木町駅集合
	12:30	猪苗代湖天神浜着
	13:00	カヌー体験
	16:00	磐梯青少年交流の家着 入所式
	17:00	つどい
	17:30	夕食
	18:45	蒔絵体験
	21:00	入浴
	22:30	就寝
7/14	6:30	起床
	7:00	つどい
	7:15	朝食
	8:00	掃除・荷物移動
	8:45	天鏡台ハイキング、昼食（お弁当） 魚つかみ取り
	15:30	野外炊飯（カレー） ※磐梯青少年交流の家の敷地内でテントキャンプ
	20:00	花火
	21:00	入浴
	22:30	就寝
7/15	6:30	起床
	7:00	つどい
	7:30	朝食
	8:15	掃除
	9:30	退所式
	16:00	桜木町駅着・解散

●活動の成果と課題

梅雨の時期にもかかわらず、予定通りの室外の活動ができ、福島 naturally に触れることができました。カヌー体験では、親子で1つのカヌーに乗り、初めての経験に仲間とも協力しながらうまく乗れるようになったことで、楽しむとともに連帯感も生まれました。蒔絵体験では、古来の技法を学び、思い思いの絵柄を考えてお椀に蒔絵を描いて楽しみました。天鏡台ハイキングでは、熊と共存している地元の暮らしを感じながら大自然に触れ、自分で獲った魚を食べました。野外炊飯で協力して作ったカレーなど、どれもが、親子の良い経験・思い出になったと思います。一緒に経験することで協調性が育まれ、その経験がひとりひとりの成長につながっていると感じます。今後の課題としては、開催場所などを工夫して、大勢の方に気軽に参加してもらえる企画も考えていきたいと思っています。



カヌー体験



自然を観察しながらハイキング
～何があるかな～

●団体概要

【設立年月】 昭和31年5月

【URL】 <http://www.zaibosi.org/>

【設立の経緯】 昭和26年戦災未亡人等の救済と自立への努力を図るため、任意団体「横浜市みのり会」として発足。物資の斡旋販売や公共施設内・売店での販売による収益金で事業活動を行ってきました。昭和31年公益法人の認可を得、財団法人「横浜市母子寡婦福祉会」に変更し、その後、平成24年一般財団法人「横浜市母子寡婦福祉会」へ移行しました。

【目的】 ひとり親家庭の生活の安定と子供の養育環境の向上に寄与することを目的として活動しています。
(包括的な就労支援事業。親子の体験事業。事業を通して仲間づくりの場の提供など。)

【構成】 理事長以下役員9名・事務局及び職員50名・他20名の団体構成員



交野子ども自然体験クラブ2019 実施団体／枚方・交野地区自然体験クラブ

- 活動期間／5月19日(日)～12月15日(日) 日帰り6回 宿泊1回 1泊2日
- 活動場所／大阪市立大付属植物園 星の里いわふね 府民の森 四条畷市野外活動センター他
- 募集地域／大阪府交野市 枚方市 寝屋川市
- 募集対象／小学生(1～6年生)、保護者
- 募集方法／・チラシ(配布先:交野市青年の家、武道館 星の里いわふね他公共施設3カ所)
・ポスター(掲示先:交野市広報掲示板10カ所)
・広報誌(広報かたの)
・その他(タウン誌マイライフ)
- 構成員数／3人



5月 植物園観察



7月 キャンプファイアー

●活動のねらいとポイント

子供たちに身近な自然の学びや遊びを通じ、自然を知り理解し心豊かな子供を育てる一助とします。

具体的なプログラム名	主なポイント
仲間づくり (5、7月キャンプ)	①学年、別学校、異性をバランスよく班構成し仲間の絆を深める ②班長を中心とした行動でリーダーシップやルールを守る心を養う
自然や環境を学ぶ (5、6、7、8、10、11月)	①自然観察や遊び、体験から感動や新しい発見のなかで自然を知る ②自然材料を使った工作やゲームなどを通じ自然に親しみ楽しさを知る
親子キャンプと連凧上げ (7、12月)	①キャンプでルールや助け合い、役割分担、人との絆を学ぶ ②共同作業などを通じ、親子、友達、スタッフとの信頼関係と係わりを知る

●参加者の安全対策・健康管理

- 【安全対策】** ①子供の送迎時の保護者付き添いの徹底と引き渡しシールによる確認
②活動地の事前確認と危険予知で安全の確保 安全管理者設置と役割分担 救急袋の常備 傷害保険の加入
- 【健康管理】** ①参加前の健康調査(アレルギー、特に留意すること)
②参加時受付で体調確認

●活動の日程・内容

月/日	時間帯	プログラム内容
5/19	10:00~ 12:00	植物園 主旨説明 仲間づくり・植物の不思議の話 目隠し五感ゲーム
	12:30~ 14:00	植物観察(嗅ぐ 触る 比べる ムクロジノ実で泡立て、羽根つき体験)
	14:00~ 15:00	タイサンボクの葉を使ってお面や自由工作 振り返り 解散
6/16	10:00~ 12:00	自然探しビンゴゲーム府民の森ハイキング ゲーム結果報告
	12:30~ 15:00	冒険の道~星のブランコ(吊り橋)ハイキング モックン工作 振り返り 解散
7/20	10:30~ 11:00	親子キャンプ バスで四条畷市野外活動センター移動
	11:00~ 12:00	開村式 テント割り発表 掃除
	12:30~ 15:00	藍の叩き染めハンカチづくり スイカ割り大会
	15:00~ 18:00	野外料理カレーづくりと飯ごうご飯炊き 夕食
	18:30~ 20:00	キャンプファイアー
	20:00~ 21:00	星空観察 シャワー 就寝
	7/21	6:00~ 7:30
	7:30~ 10:00	テント内外掃除 親子で自由遊び 振り返り 閉村式
	10:00~ 10:30	キャンプ場退出 バス移動 解散
8/18	10:00~ 12:00	天の川で川の生物捕りと名前しらべ
	12:30~ 15:00	ミジンコ観察 竹での水鉄砲工作と遊び 振り返り 解散

月/日	時間帯	プログラム内容
10/20	19:30~ 12:00	電車で山田池公園に移動 昆虫採取と名前しらべ 紙ヒコーキ飛ばし競争
	12:30~ 15:00	水の不思議実験、浮沈子づくりと遊び 振り返り 電車で移動 解散
11/17	10:00~ 12:00	雲屋川公園移動 公園散策と落ち葉集め 落ち葉のアート工作
	12:30~ 15:00	作品の発表 ドングリ落とし、オナモミダーツ ゲーム 振り返り 移動解散
12/15	10:00~ 12:00	星の里いわふね 親子でビニールで凧づくり 豚汁料理
	12:00~ 13:00	小学校グラウンドで凧あげ 連凧あげ
	13:00~ 14:30	豚汁昼食会
	14:30~ 15:00	動画で振り返り 参加の感想 解散

●活動の成果と課題

この活動を通して、見近かな自然を伝えることができ、植物や昆虫に興味を示す子供が出てきました。また、年長組は下級生の面倒をよく見て、ルールもよく守り、成長の跡が見て取れました。親世代が自然体験の大切なことを理解し子供の成長を感じてもらえました。

課題としては、子供が年々集まらなくなっています。各回30人の募集で参加率39%(昨年は67%)のため募集の仕方など工夫が必要と考えています。指導者の高齢化のためリーダー育成を図る予定です。



8月 天の川を渡る



11月 落ち葉でアート

●団体概要

【設立年月】 2005年12月(平成17年12月)

【設立の経緯】 「子ども自然教室」などの活動を行っていた「シニア自然大学校」の仲間が「枚方・交野地区自然体験活動実行委員会」を結成。21~24年度は7活動が「子どもゆめ基金助成」を受けました。26年度に組織を簡素化して「枚方・交野子ども自然体験クラブ」と改称し交野1活動を助成活動としました。

【目的】 身近な自然を子供たちに伝え、自然を大切にし健全で心豊かな子供が育つ様な環境づくりをします。

【構成】 役員 会長1名、事務局1名、幹事1名、監事1名、指導者10名

科学ヘジャンプ・イン・北海道2019 実施団体／科学ヘジャンプ・イン・北海道実行委員会

- 活動期間／10月5日（土） 日帰り1回
- 活動場所／北海道札幌視覚支援学校
- 募集地域／北海道全域
- 募集対象／小学生（1～6年生）、中学生、高校生
- 募集方法／・チラシ（配布先：道内各盲学校・視覚支援学校、弱視特別支援学級、教育相談来校者）
・ポスター（掲示先：北海道札幌視覚支援学校） ・その他（科学ヘジャンプのホームページ）
- 構成員数／30人



白い粉の観察：いろいろな白い粉の手触り



北海道の野生動物：エゾタヌキの毛皮の観察

●活動のねらいとポイント

視覚障害児が、同じ障害を持つ仲間と切磋琢磨し学ぶ喜びを持たせるため、専門家の指導のもと自分自身の手で実験や観察等の科学的活動を行う機会を作り、視覚に障害があっても科学的活動ができることを実感させることをねらいとしています。

具体的なプログラム名	主なポイント
ワークショップ： サメのふしぎ	<ul style="list-style-type: none"> ・サメの標本から本体及び各部位の特徴をじっくり観察し確かなイメージを持たせる。 ・児童生徒の知りたい気持ちを大切に、観察したこと、発見したことを言葉で伝え合う。
ワークショップ： 白い粉の観察	<ul style="list-style-type: none"> ・身近にあるいろいろな白い粉を自分の感覚で観察し、比較するなどして、気づいたことを言葉で表現し友達と分かち合う。いろいろな物質に興味を持つ。
ワークショップ： アンモナイトってどんな生き物？	<ul style="list-style-type: none"> ・実物のアンモナイトに触れ、現在の生き物との比較を通してその特徴を理解し、実は、イカやタコの仲間だったことを知る。

●参加者の安全対策・健康管理

【安全対策】 参加児童生徒の移動時には、スタッフが引率し、体験活動における視覚障害に対応した安全配慮について、事前に指導者、スタッフが共通理解を図り、特に支援が必要な児童生徒には支援スタッフを配置。

【健康管理】 原則として保護者同伴での参加とし、会場校には養護教諭が待機するとともに、地域の医療機関に事前に緊急時の対応等の協力をお願いする。緊急連絡体制を作成済み。

●活動の日程・内容

月/日	時間帯	プログラム内容
10/5	9:30~	参加者受付
	10:10~	開会の集い
	10:30~	児童生徒ワークショップ体験Ⅰ、引率保護者は見学 ・サメのふしぎ ・電気と磁石のふしぎ ・北海道に生息する野生動物の骨格、毛皮に触れ、その違いを知る ・白い粉の観察 ・アンモナイトってどんな生き物？ ・自然を体験しよう
	12:00~	昼食・休憩
	12:40~	自由交流
	13:30~	児童生徒ワークショップ体験Ⅱ、引率保護者は保護者プロ体験（盲・弱別） ・北海道に生息する野生動物の骨格、毛皮に触れ、その違いを知る ・サメのふしぎ ・自然を体験しよう ・アンモナイトってどんな生き物？ ・白い粉の観察 ・理科遊び
	15:00~	アンケート記入
	15:20~	閉会の集い
	15:30~	解散

●活動の成果と課題

各指導者が、視覚障害児童生徒の特性を踏まえた体験を中心としたワークショップを提供することで、一人一人が達成感、成就感を持って活動することができました。また、引率した保護者からも子ども達の楽しそうに活動する様子に満足し、用意した保護者プログラムにも評価をいただきました。指導者にとってもより専門性を深める学びの場・実践の交流の場となり、北海道の視覚障害教育に携わる教員の指導力の向上が図られました。本イベントの継続と次回も参加したいという声がほとんどであり、今後は、ワークショップの内容の広がりや外部講師に対する視覚障害児への指導のあり方等についての理解を一層深めたいと思います。



サメのふしぎ：サメの観察



自然を体験しよう：森の香水を嗅いでみよう

●団体概要

【設立年月】 2011年

【設立の経緯】 視覚障害児童生徒に科学体験の場を提供するために、全国8ブロックの地域版実行委員会の一つとして、北海道では、2011年に設立され、視覚障害教育関係者を中心に実行委員会を組織し、独自に運営し活動を行っています。

【目的】 北海道地区の視覚に障害のある児童生徒を対象とした科学の体験機会である、「科学へジャンプ・イン・北海道」を企画・運営し、盲学校（視覚支援学校）等に在籍している視覚障害児童生徒がともに活動し自らの手で科学に親しむ機会を提供します。

【構成】 盲学校及び弱視特別支援学級の現職教員（約20名）及び退職者（4名）、視覚障害教育関係者（4名）、趣旨に賛同する者（2名）等で組織し、実行委員長等役員は構成員の互選としています。

青葉おばけやしきプロジェクト 実施団体／NPO法人あおば学校支援ネットワーク

- 活動期間／6月30日（日）～9月16日（月） 日帰り13回
- 活動場所／横浜市藤が丘地区センター、横浜市もえぎ野地域ケアプラザ
- 募集地域／横浜市青葉区を中心とした市内外
- 募集対象／小学生（3～6年生）、中学生、高校生、一般成人
- 募集方法／・チラシ（配布先：区内小中学校、高校、大学、区役所、地区センター等）
・ポスター（掲示先：区役所、地区センター等）
・その他（Facebook、Lineグループ、メーリングリスト等）
- 構成員数／13人



企画会議は年齢に関係なく発言



班ごとに打ち合わせをしてから制作



地域サポーターの商店にあいさつ回り

●活動のねらいとポイント

異世代のメンバーでの制作や発表の体験を通してコミュニケーション力を高め、自分の役割を果たして自己肯定感を高め成長することをねらいとしています。

具体的なプログラム名	主なポイント
企画会議	世代の異なる参加者による会議の中で、お互いの意見を尊重し調整力を養う。また、限られた空間、時間、予算で創意工夫する楽しさを知る。
制作、運営会議	年長者から様々なことを学びながら、組織の中で自分の役割を果たし、ものづくりを楽しむ。また、運営会議の時間を設け、事業を行ううえで宣伝や当日の受付など必要な裏方の仕事も考えて、全員で分担し支え合って作り上げることを体験する。
本番、ふりかえり	活動の発表の場として地域により良いものを提供しつつ、地域の青少年と新たな交流をはかる。終了後は全員で片付けを行い、達成感・充実感を味わいつつ、自信の持てる自分に出会う。後日、ふりかえりの機会を持ち、一人一人の成長と地域活動への参加意義をあらためて見つめる。

●参加者の安全対策・健康管理

【安全対策】 アレルギーや参加にあたって配慮してほしいことなどを保護者から確認し、内容に応じてスタッフが必要な情報を共有する。ケガや事故の対策として、刃物類などの安全な取り扱い方法を定着させ、落ち着いた環境で活動できるよう心掛ける。屋外では交通事故にも気を付けてスタッフがつきそう。スタッフ、参加者、イベント来場者は全員保険に加入する。

【健康管理】 室温に注意し、夏季の熱中症対策として水分摂取などの配慮を怠らないようにする。子供の様子に気を配り、実施中も随時体調を確認する。緊急時に備えて近隣の病院を把握する。

●活動の日程・内容

月/日	時間帯	プログラム内容
6/30	9:30~12:00	キックオフミーティング① (高校生以上) イベントの概要企画
7/7	9:30~12:00	キックオフミーティング② (中学生以上) テーマ設定や次回から参加する小学生の受け入れ準備
7/21	9:30~12:00	企画会議① メインのアトラクションや制作する大道具の企画
7/28	9:30~12:00	企画会議② テーマに沿って出現するおばけの種類や小道具の企画、会場エリア周辺で広報活動やサポーター店舗への挨拶
7/31	9:30~12:00	企画会議③ 大道具・小道具の制作方法の決定材料、買い出しリスト作成、会場エリア周辺で広報活動やサポーター店舗への挨拶
8/4	13:00~13:30	制作作業① グループミーティング
	13:30~16:00	大道具・小道具制作
	16:00~17:00	片付け、次回の打合せ、会場エリア周辺で広報活動やサポーター店舗への挨拶
8/10	13:00~13:30	制作作業② グループミーティング
	13:30~16:00	大道具・小道具制作
	16:00~17:00	片付け、次回の打合せ、会場エリア周辺で広報活動やサポーター店舗への挨拶
8/18	13:00~13:30	制作作業③ グループミーティング
	13:30~16:00	大道具・小道具制作、衣装決め 当日の運営の検討
	16:00~17:00	片付け、次回の打合せ
8/21	13:00~13:30	制作作業④ グループミーティング
	13:30~16:00	大道具・小道具制作、演出の打合せ 当日の運営に必要なものを用意
	16:00~17:00	片付け、次回の打合せ
8/23	18:00~20:30	設営① (夜間のため高校生以上) 通路づくりの下準備 翌日の全員で行う設営の手順の打合せ
	9:00~9:30	設営② 全体ミーティング
8/24	9:30~11:30	グループごとに担当エリアの通路と壁の制作
	11:30~12:30	グループ別に順番で昼食
	12:30~15:00	大道具・小道具の設置 設営後、各自が担当するおばけ役の練習 受付や待合室の設営
	15:00~15:30	休憩
	15:30~16:30	リハーサル (全員がおばけ役と運営役の両方を練習)
	16:30~17:00	本番当日の連絡、小中学生終了
	17:00~18:00	休憩、不具合箇所の修理
	18:00~20:30	室外の設営 (一般利用者の利用終了後に、高校生以上で実施)、本番の打合せ

月/日	時間帯	プログラム内容
8/25	9:00~10:00	本番 全体ミーティング、グループミーティング、不具合箇所の修理
	10:00~10:30	避難訓練、開場準備
	11:00~14:30	おばけやしきオープン 途中でおばけ役と運営の役割を交代、昼食
	14:30~15:00	おばけやしきクローズ 寄せ書きや感謝状などの交換
	15:00~16:00	片付け
	16:00~16:30	アンケート
	16:30~17:00	全体ミーティング、小中学生終了
	17:00~17:30	高校生以上ミーティング、終了
9/16	10:00~12:00	ふりかえり、調理
	12:00~13:00	会食、片付け
	13:00~15:00	記念品制作、活動中の写真鑑賞

●活動の成果と課題

青少年の地域参加や、異世代が互いに学びながら交流できる機会として、世代間交流とものづくりをテーマにしている当活動は、11年目になります。継続することで地域への周知も進んで参加者・支援者ともに増え、多様な交流が生まれました。子供たち自らがポスター掲示など地域への協力依頼へ足を運び、社会とつながる機会ができたことは貴重な経験で、終了後のアンケートでは、自己肯定感や思考力、発信力などにおいて顕著な伸びが見られました。11年間の継続を踏まえると、遊びの場として来ていた子供たちが成長して、活動の指導や見守りを担う側になって参加しており、たいへんよい循環ができています。

期間中の制作物の保管は幸い会場のご協力を得ていますが、保管場所が課題と考えています。



入り口で陽気に出迎えるおばけと記念撮影

●団体概要

【設立年月】 2005年4月

【URL】 <http://www.aobaschoolsupport.net/>

【設立の経緯】 区のコーディネーター養成講座修了生有志により発足。市や区、教育委員会などと連携し、学校教育の支援や地域での教育に携わる。2020年4月に法人化し、事業を拡大して展開しています。

【目的】 青少年をはじめとするすべての市民に対して、学校や地域で多様な学びの機会をつくり、自分らしく生きることができる子供たちが育つ社会づくりに寄与するため、教育支援や体験活動、講座・研修、居場所づくりなどを行っています。

【構成】 学校教育や社会教育、保育などに関わる職業の社会人を中心に30代~80代までの13名(内役員4名)で構成し、男女比は半々。活動時は非会員のボランティア多数が参加しています。



カマクラ図工室 山と海2019 実施団体/カマクラ図工室

- 活動期間/8月7日(水)~11日(日) 4泊5日 / 9月5日(木)~8日(日) 3泊4日 宿泊2回
- 活動場所/長野県上田市塩田地区(山の学校) / 神奈川県鎌倉市腰越地区(海の学校)
- 募集地域/鎌倉市内
- 募集対象/小学生(1~6年生)
- 募集方法/チラシ(配布先:鎌倉市内の国公立小学校)
- 構成員数/7人



伝説の水が湧くという山の神社に向かう道中、ブドウ農家の方と出会い、交流する子どもたち。(山の学校)



山の学校の川遊びに続いて海遊びに没頭する子どもたち。(海の学校)



通学合宿の様子。下校後、入浴を終え、夕飯の支度をする子どもたち。(海の学校)



通学合宿の様子。入浴と夕飯の準備を終え、学校の宿題に取り組む子どもたち。(海の学校)

●活動のねらいとポイント

社会全体を「図工室」に見立て、子供たちが山(信州上田)と海(鎌倉)の異なる環境下で、自ら多様な個性に関わりながらモノやコトをつくりだす経験を通して、自立心や創造力を培うことを目的としています。

具体的なプログラム名	主なポイント
自炊生活・通学合宿	山の学校の1日3食の食事は、食材の買い出し、食事作り、片付けまで子どもたち自身が責任をもつ。また、海の学校では、山の学校の経験をもとに通学合宿を行い、家族を頼らずに生活する。
ワークショップ	アーティストによるワークショップを実施し、上田市民や鎌倉市民と交流するための「手段」として、「物々交換」や「自然観察」を紹介する。
フィールドワーク	4泊5日・3泊4日の生活は、予定調和のないオールフリーの生活を基本とし、子供たちは自ら考えた活動計画やその都度閃いたアイデアにしたがって行動する。そこに関わるスタッフは、子供同士のコミュニケーションを促すファシリテーターの役割として同行し、管理的な指導や誘導は行わない。

●参加者の安全対策・健康管理

[安全対策] 事前に活動候補地の下見を行い、危険箇所の把握、救急病院の位置と経路の確認、地元自治会との打ち合わせを行う。活動当日は、各グループに指導者や協力者が2名以上同行し、子供たちの健康や安全を確保する。

[健康管理] 事前に健康調査票を配布し、子供たちの健康状態を把握するとともに、合宿中は毎朝健康観察を行う。また、合宿中は女性スタッフが帯同し、女子児童の健康にも十分配慮する。

●活動の日程・内容

月/日	時間帯	プログラム内容
【山の学校】		
8/7	7:00	JR 鎌倉駅集合 5名ずつ2グループに分かれて、自ら選択した移動経路に沿って在来線を乗り継ぎ、長野県上田市塩田地区（上田電鉄「中塩田駅」）まで移動
	16:00	五加自治会館到着。食材買い出し、夕飯作り
	19:00	入浴（別所温泉公衆浴場）、夕食、片付け 1日の振り返りと明日の活動計画
	21:00	就寝
8/8	6:00	起床、朝食・昼食作り、朝食。
	9:00	上田市の人々との交流を目的にしたフィールドワーク、昼食 ワークショップ「物々交換」 （指導者：柚木恵介（秋田公立美術大学准教授））
	17:00	入浴（別所温泉公衆浴場）、夕食、片付け
	19:00	講演会「命の返し方」 （指導者：伊沢正名（自然写真家・糞土師））
	21:00	1日の振り返りと明日の活動計画
	22:00	就寝
8/9	7:00	起床、朝食・昼食作り、朝食
	10:00	上田市の人々や自然との交流を目的にしたフィールドワーク、昼食 ワークショップ「物々交換」 （指導者：柚木恵介（秋田公立美術大学准教授）） ワークショップ「自然観察」 （指導者：伊沢正名（自然写真家・糞土師））
	17:00	入浴（別所温泉公衆浴場）、夕食、片付け
	20:00	1日の振り返りと明日の活動計画
	21:00	就寝
8/10	7:00	起床、朝食・昼食作り、朝食
	10:00	上田市の人々や自然との交流を目的にしたフィールドワーク、昼食 ワークショップ「物々交換」 （指導者：柚木恵介（秋田公立美術大学准教授））
	18:00	入浴（別所温泉公衆浴場）、夕食、片付け
	21:00	1日の振り返りと明日の活動計画
8/11	22:00	就寝
	6:00	起床、朝食・昼食作り、朝食、掃除・片付け
	9:30	五加自治会館出発 5名ずつ2グループに分かれて、自ら選択した移動経路に沿って在来線を乗り継いでJR 鎌倉駅まで移動
	16:00	JR 鎌倉駅到着、解散

月/日	時間帯	プログラム内容
【海の学校】		
9/5	18:00	江ノ島電鉄「腰越駅」集合、合宿場所であるFolk koshigoeに移動
	19:00	食材の買い出し、夕食作り、夕食、片付け、入浴
	22:00	就寝
9/6	6:00	起床、朝食作り、登校準備
	7:00	小学校に登校
	16:00	帰宅、食材の買い出し、夕食作り、入浴
	19:00	夕食、片付け
9/7	22:00	就寝
	6:00	起床、朝食・昼食作り、朝食
	9:00	鎌倉市の人々や自然との交流を目的にしたワークショップ「コトづくり」 （指導者：柚木恵介（秋田公立美術大学准教授））
	17:00	入浴、夕飯作り、夕食、片付け
	20:00	「山の学校」から「海の学校」までの振り返り
	22:00	就寝
9/8	6:00	起床、朝食・昼食作り、朝食、片付け
	9:00	Folk koshigoeの片付け、掃除、帰宅準備 ※台風15号接近のため、予定していたワークショップを中止し、解散時刻も早める
	13:00	江ノ島電鉄「腰越駅」で解散

●活動の成果と課題

消費社会を背景にして、サービスが日常生活の隅々まで浸透し、受け身、待ちの姿勢で生活する傾向が強い子供たち。夏休み中の合宿だけでなく、休み明けも継続して通学合宿を行い、山や川、海、動植物などの自然にふれ、自ら上田市民や鎌倉市民との交流の場をつくり出す体験は、モノやコトを大人から充てがわれる自らの生活を省みる機会になり、自ら考え、行動する力を育むことにつながりました。また、現職教員、アーティスト、市民が子どもたちの姿を通して教育の現状や課題について共通理解を図り、未来への展望をもつことができました。今後は、鎌倉市と上田市の子どもたちの双方向の交流を実現させるとともに、実践の場を環境の異なる他府県にも広げながら、新たな可能性を探ってまいります。

●団体概要

【設立年月】 平成26年4月1日

【URL】 <http://www.kamazu.work>

【設立の経緯】 カマクラ図工室は、教育に関する多くの責任を抱え込んでいる学校の現状を鑑み、学びの場を「学校」から「社会」へと広げ、子供たちが実社会の中で人・もの・ことに関わりながら未来を切り拓いていく場をつくり出そうと、現職教員・アーティスト・市民の有志で設立した任意団体です。

【目的】 本団体は、社会全体を「図工室」に見立て、子供たちが自ら多様な個性に関わりながらモノやコトをつくりだす経験を通して、自立心や創造力を培うことを目的とします。2014年に設立以降、神奈川県立近代美術館や喜多方・夢・アートプロジェクト実行委員会、三箇地区都会との交流を進める会（新潟県津南町）、横須賀美術館、五加自治会（上田市）等の公共機関や諸団体とともに、子供たちが自ら他者、芸術、自然等の対象に関わる合宿を実施し、その経験を様々な手段で作品化し、展覧会等を通して社会に発信しています。

【構成】 ・小学校教員（40代男性3名） ・大学教員（40代男性1名）
・アーティスト（40代男性1名・60代男性1名） ・自営業（40代女性1名）



きれいな海を守ろう、楽しく海岸清掃&サンドアート! 実施団体／特定非営利活動法人 ひらど海てらす

- 活動期間／11月10日（日） 日帰り1回
- 活動場所／平戸大橋公園・皿川海岸
- 募集地域／平戸市・佐世保市・近隣市町
- 募集対象／未就学児（1～5歳）、小学生（1～6年生）、保護者
- 募集方法／・チラシ（配布先：市役所、図書館、学童、店舗）
・広報誌（広報ひらど）
・その他（HP、SNSでの発信）
- 構成員数／4人



海岸清掃の様子



砂像制作風景

●活動のねらいとポイント

地元の豊かな環境の素晴らしさ、美しい海を守る事を考える機会を作り、自発的継続的な清掃活動のきっかけとします。

具体的なプログラム名	主なポイント
海岸清掃	市内の汚れた海岸を2時間程度清掃する。海流の話、海の生物、ゴミの種類の話や観察をしながら海の現状を学ぶ。一人一人にゴミのない環境について考えてもらい、清掃意識を高める。
昼食	参加者全員で昼食をとりながら、清掃活動中に気付いたことや考えたことについて話し合う。年齢や性別を問わず、市民、地域間の交流をはかる。
サンドアート教室	講師を招いて清掃後のきれいな浜で子供たちがサンドアートに挑戦。海で遊ぶ楽しさ、サンドアートができるきれいな砂浜、海の維持に気づかせる。

●参加者の安全対策・健康管理

【安全対策】 事前に清掃場所を下見し、海岸の状況を確認。危険なゴミについての事前案内と注意喚起をする。服装、準備物などの事前案内を徹底する。また、当日はスタッフと大人の参加者による子供の見守りを徹底する。

【健康管理】 暑さ、寒さ対策（事前服装の情報提供）、水分補給（飲料水・飴）、救急箱を準備する。体調の悪い場合は無理をせず、待機させる。天候により続行が難しいと判断した場合は速やかに中止とする。

●活動の日程・内容

月/日	時間帯	プログラム内容
11/10	9:00	受付開始 受付開始後に主催者側からの挨拶、本日のスケジュール、注意事項の説明。 各自必要な清掃用具等持ち、皿川海岸（清掃場所）へ移動。
	9:40	海岸清掃を開始 スタッフが流れ着くゴミの種類や特徴を説明。 漁具、発砲スチロール、ペットボトル、外国語がプリントされた漂着ゴミの紹介。 マイクロプラスチックなどについても説明。 種類ごとに分別しながら各自収集。
	11:30	清掃終了 ゴミをまとめる作業を開始。
	12:00	昼食 参加者全員で昼食。 （おでん、混ぜご飯、焼きそば）
	13:15	サンドアート教室開始 指導者挨拶。サンドアート（砂像）とは何か、道具の使い方、砂の特徴などを説明。 1～3名で1組となり砂像制作開始。30cmほどの水で固めた砂山からアイデアを出し合い制作。
	15:30	サンドアート教室終了 終わった人から解散。



海岸清掃の様子

●活動の成果と課題

清掃活動中の子供たちから、ゴミの種類や質問やゴミの量について個々の思いや意見が多数出ました。漂着ゴミや、多くみられるゴミの種類について興味を持ったことは、子供たち自身が考える時間となったのではないかと思います。今回の活動はファミリー層を中心に参加して頂いたので、より多くの世代の人に海の現状を知ってもらう機会となりました。興味を持ってもらう事、知ってもらう事について、一定の目的は達成できたと思います。清掃後のサンドアート教室も好評でした。材料は砂と水のみで環境にも良く、このサンドアート教室は今後も継続していきたいと思っています。また、海の現状を知ってもらう機会を今後も様々な形で継続・活動していくことが重要であると考えています。



親子で砂像制作

●団体概要

【設立年月】 平成30年5月

【URL】 <https://hiradoumiterasu.wixsite.com/umiterasu>

【設立の経緯】 平成29年7月 空き家の有効活用を目的に有志による任意団体西風屋を発足しました。
平成29年11月 NPO 法人化を検討。
平成30年6月 NPO 法人ひらど海てらす設立となりました。

【目的】 よりよい街づくりをめざしています。現在商店街にある空き家を改装中。古材や廃材を利用しほぼセルフフリノーションで地域の方の協力を得ながら進めており、地域の休憩所や案内所などに活用予定。地元小学生を対象にしたサマーキャンプなどを実施。自然を使ったアクティビティや地域交流をメインに実施しています。

【構成】 I・Uターン*者多数 職業：自営業・公務員など

年齢層：30代6人、40代4人、50代1人

※Iターン＝出身地とは違う土地で働くこと、Uターン＝都市に移住した人が地方に戻って働くことをいいます。



自然体験

科学体験

交流体験

社会奉仕

職場体験

その他の体験

読書

教材

スマイルキッズタウン2019

実施団体／特定非営利活動法人 スマイルプロジェクト

- 活動期間／2019年7月7日（日）～2019年11月18日（月） 日帰り8回
- 活動場所／藤枝市生涯学習センター
- 募集地域／WEBにて募集（全国）
- 募集対象／小学生（1～6年生）、中学生
- 募集方法／・チラシ（配布先：藤枝市・焼津市内 全小中学校）
 - ・ポスター（掲示先：藤枝市・焼津市内 小中学校、藤枝市内 公共施設）
 - ・広報誌（広報ふじえだ）
 - ・その他（専用WEB、Facebook、Twitter、Instagram）
- 構成員数／30人



事前ミーティングの風景



施設、税務署、銀行の様子

●活動のねらいとポイント

スマイルキッズタウンというまちを、子供たちが自分たちで形成していく体験から自主性、協調性、想像力を育み、経済やまちの仕組みを学びます。

具体的なプログラム名	主なポイント
ボランティアスタッフミーティング	ボランティアスタッフとして参加してくれる学生たちに「スマイルキッズタウン」とは何か。目指すもの、子供たちとの関わり方等の説明をする。
スマイルキッズタウンミーティング	お店やまちの運営をするため、事前ミーティングを行う。チームを組みどんなまちにするかなどを考え、まちを作っていく過程を体験する。
スマイルキッズタウン	市民になり、仕事をする、まちの運営をする、給与を貰う、税金を納める、買い物をする、遊ぶなどの体験をしてまちを作る。お互いに関わり合いながら成長する。

●参加者の安全対策・健康管理

【安全対策】 エリア毎にスタッフ及びボランティアを配置。過激な言動や暴力等が発生した場合は大人が立ち入る。危険行為を見かけた際は指導する。

【健康管理】 怪我や体調管理対応の看護師1名を配置。熱中症対策の飲み物を用意する。救護室を用意する。

●活動の日程・内容

月/日	時間帯	プログラム内容
7/7	13:00～ 17:00	第1回スマイルキッズタウンミーティング 目標「グループのお友達と仲良くなってみんなで仕事を決めよう」
7/15	13:00～ 17:00	第2回スマイルキッズタウンミーティング 目標「楽しい仕事には何が必要？みんなでソウゾウしよう」
7/28	13:00～ 17:00	第3回スマイルキッズタウンミーティング 目標「お金のルールを学ぼう」
8/1	13:00～ 17:00	第4回スマイルキッズタウンミーティング 目標「ワクワクお店づくりウキウキみんなでDIY」「予行練習ミニキッズタウン開催」
8/2	10:00	スマイルキッズタウン2019 1日目
	13:00	当日参加の子供たちが入場してスタート！
	16:30	1日目終了、2日目準備
8/3	10:00	スマイルキッズタウン2019 2日目
	12:30	スマイルキッズタウン2020市長立候補者選挙演説
	13:00	スマイルキッズタウン2020市長選挙投票開始
	16:00	スマイルキッズタウン2020市長選挙投票終了
	16:30	2日目終了、3日目準備
8/4	10:00	スマイルキッズタウン2019 3日目
	12:00	スマイルキッズタウン2020市長選挙結果発表 新市長・市議の発表
	16:30	クロージング 各表彰式、全体写真撮影
11/18	16:00	藤枝市教育長表敬訪問（事業報告）
	16:10	スマイルキッズタウン2019 事業報告
	16:20	スマイルキッズタウン2020マニフェスト提出

●活動の成果と課題

7年目を迎えた「スマイルキッズタウン」は、行政、協賛企業、学生を中心としたボランティア、そして保護者の皆様にご協力頂き、無事開催することができました。お店やまちの運営方法に多くの課題がありましたが、お互いに色々な意見を出しボランティアスタッフにも協力してもらい解決していきました。初めて会うお友達ともまちを作る過程を通し、仲良くなり参加した子供たちの成長を見る事ができました。スマイルキッズタウン経験者から多くの子供たちが、ボランティアスタッフとして協力頂きました。「スマイルキッズタウン」には様々な想いや目的がありますが、これからも子供たちの可能性を信じ、子供たちと一緒に笑顔溢れる“子供のまち”を作り続けていきたいと思えます。



お店、物販、お買い上げ風景



市長選挙立候補者掲示板を見ている様子

●団体概要

【設立年月】 平成26年5月23日

【URL】 <http://smile-prj.org/>

【設立の経緯】 平成25年（一社）藤枝青年会議所にて同事業を開催。その後、本事業の必要性を検討し、様々な枠を越えて事業の継続・発展・拡張を行う為に関わった藤枝青年会議所 OB 有志を中心に「スマイルプロジェクト」としてNPO 法人を設立。

【目的】 この法人は、青少年及びそれに関わる不特定多数の者に対して、行政、企業、各種団体、ボランティア等と協働して、子供がつくるまち事業を中心に青少年育成事業やまちづくり事業等を行い、子供たちの自主性、協調性、想像力を育み、笑顔溢れるまちの創造に寄与することを目的としています。

【構成】 ・経営者、自営業者、青年経済人が中心
・年齢層（40代25名、30代5名）、男性28名、女性2名

災害チャレンジキャンプ 実施団体／日本ボーイスカウト秋田県連盟

- 活動期間／9月7日（土）～9月8日（日） 宿泊1回 1泊2日
- 活動場所／秋田県立岩城少年自然の家
- 募集地域／秋田県内、特に秋田市・由利本荘市・湯上市・大仙市・湯沢市
- 募集対象／小学生（1～6年生）
- 募集方法／・チラシ（配布先：小学校等）
・ポスター（掲示先：公民館・児童施設等）
・その他（HP・Facebook）
- 構成員数／200人



空き缶バーナー作り



シェルター作り

●活動のねらいとポイント

自然災害等に負けない青少年の育成と、家庭や地域への積極的協力・参加意識やコミュニティ力を醸成します。

具体的なプログラム名	主なポイント
どうする？ 食	少ない水での調理法や身近にある物での炊飯等を体験する。
どうする？ 住	シートを使った寝場所の確保やテント泊を行う。
どうする？ 怪我	野外での応急処置の方法や CPR・AED を体験する。

●参加者の安全対策・健康管理

【安全対策】 傷害保険や賠償責任保険に加入するとともに、活動スペースに十分余裕のある会場確保に努め、安全管理スタッフを配置する。様々な年齢構成の参加者が予想されることから、開始に当たってのセーフティトーク（安全説明）を十分に行うとともに、救急用品の整備だけでなく、近郊の医療施設、連絡体制、緊急対応等万全の準備を行う。

【健康管理】 安全管理スタッフを参加者10名に対して1人配置し、人数確認と体調チェックを行う。また、セーフティトーク（安全説明）の際に、体調がすぐれなくなった場合にはすぐスタッフに知らせるよう伝える。

●活動の日程・内容

月/日	時間帯	プログラム内容
9/7	10:00	参加者集合・受付
	10:30	開会式・オリエンテーション
	11:00	テント設営
	12:00	昼食
	13:00	シート等を使ったシェルター作り 空き缶バーナー作り&着火体験 新聞紙食器作り
	16:00	災害時の夕食づくり (薪炊事・ビニール袋炊飯・空き缶バーナー等)
	18:45	夕食・後片付け終了
	19:00	炎を囲んで災害体験者から話を聞く
	20:00	入浴
	21:00	振り返り
	21:30	就寝
	9/8	6:00
7:30		朝食・後片付け
8:30		朝の集い
9:00		テント撤営・清掃
10:00		救急法(止血・CPR・AED・搬送)・飲料水の確保(浄水)
11:30		閉会式
12:00		解散

●活動の成果と課題

災害時の食・住・救急法を主に展開しました。グループ活動により一人でやるより協力する効率性や楽しさを学びました。見学保護者の部分的参加により、親子で災害対処法も楽しく体験出来ました。今年は6年生のリピーターが何人もいたため、グループリーダーのような存在として活躍しました。活動のねらいに関しては80%は達成できたと思われます。次年度はグループ活動時にジュニアリーダー的役割がより発揮出来るような活動形態を研究し、反映したいです。また、保護者の関わり方・参画の仕方を再考し、活動目的の達成不足部分を補い、活動目的が十分に達成出来るようプログラム及びその展開方法を考え、参加者がより楽しく有意義に本事業を体験出来るように考えていきたいです。



CPR(心停止に対する心肺蘇生法)体験の様子



設営の様子

●団体概要

【設立年月】 1951年7月

【URL】 <https://scout-akita.org/>

【設立の経緯】 1922年4月13日に設立したボーイスカウト日本連盟のもと、県の独自性を持ちながら、ボーイスカウト運動を普及し、その運動を通じて青少年の優れた人格を形成し、かつ国際友愛精神の増進を図り、青少年の健全育成に寄与することを目的に、地域に根ざした活動を行っていくために設立しました。

【目的】 世界スカウト憲章に基づき、目的達成のため、ボーイスカウト運動の普及、ボーイスカウト県連盟行事の計画・実施・運営、指導者養成、日本連盟行事・国際行事参加への協力等を行っています。

【構成】 全国9万8千人の加盟員のうち、秋田県は200人の加盟員。



読書デザインー子どもに本を届けるー 実施団体／特定非営利活動法人 名古屋おやこセンター

- 活動期間／7月22日（月）～8月26日（月） 日帰り6回
- 活動場所／名古屋市 ウイルあいち セミナールーム
- 募集地域／名古屋市とその周辺市町村
- 募集対象／一般成人
- 募集方法／チラシ（配布先：市内図書館・生涯学習センター・周辺市町村図書館）
- 構成員数／3人



紙芝居を学ぶ講座風景



絵心なくても大丈夫簡単手作り絵本講座風景

●活動のねらいとポイント

「読み聞かせ」は子供が将来読書の喜びを獲得するための一手段です。子供の成長に合わせた絵本・本選びと、届けかたを初歩から学ぶと共に、子供の読書に付き添う大人の育成をめざしています。

具体的なプログラム名	主なポイント
子供に読み聞かせを	赤ちゃんからヤングアダルトまでの年齢に読書に付き添える大人になるには、ボランティアとしてどうすればよいかを学ぶ。
絵本の選び方	子供たちに本当に届けたい絵本はどのような絵本を選んだらよいか？ 講師が実践している読み比べによって学ぶ。
絵本作家とつくる オリジナル絵本	絵本「ほしじいたけ ほしばあたけ」の作者といっしょに絵本をつくり創作のおもしろさや想像力について感じることで読書の楽しさを伝えられる大人の育成。

●参加者の安全対策・健康管理

- 【安全対策】 事前に会場の下見をする。
講義中は常に参加者に気を配る。
台風等の自然災害の心配がある時は早い段階で参加者に中止・延期の連絡をする。
- 【健康管理】 常に室内の換気・室温等に気を配る。
急患等に対応できるようにスタッフは2名以上配置する（3名予定）。

●活動の日程・内容

月/日	時間帯	プログラム内容
7/22	10:00～ 12:00	「子供に読み聞かせを」 講師：元図書館司書 近藤洋子 絵本や読み聞かせがなぜ子供達に必要な？ 子供達の読書生活を豊かにするために何をすべきか？
7/29	10:00～ 12:00	「絵本の選び方」 講師：家庭文庫「どんぐり小屋」 主宰 久原幸子 どのような絵本を選んだらよいか？ 氏が実践している読み比べによって学ぶとともに 選べる感性を養う。
8/5	10:00～ 12:00	「耳からの読書」 講師：名古屋ストーリーテリングの会 下澤いづみ 耳からの読書と呼ばれている「ストーリーテ リング」を体験することで、読書がもたらす想像 力について学び、将来の読書へつなげるととも に読書の大切さを知る。
8/16	10:00～ 12:00	「ふれあい手遊び・わらべうた」 講師：読書ボランティア 西村英美 おはなし会の中でどのように手遊びやわらべ うたを取り入れるか？ 絵本のすばらしさをそこなわない手遊び・わら べうたはどのようなものかを実際に演習する。
8/21	10:00～ 12:00	「紙芝居を学ぶ」 講師：紙芝居文化の会会員 道山由美 世界中に広まっている紙芝居について、選び方 から読み方まで、紙芝居の基礎を1から学ぶ。
8/26	10:00～ 12:00	「絵心なくても大丈夫！簡単手作り絵本」 講師：絵本作家 石川基子 絵本『ほしじいたけ ほしばあたち』の作者石 川基子さんと一緒に簡単オリジナル絵本をつく る。絵本作りの創作のおもしろさや創造力につ いて感じることで、読書の楽しさを伝える大人 を目指す。

●活動の成果と課題

講座の参加者はすでに読書ボランティアをされている方と全くの初心者の方で、講座後のアンケートによると両者ともに満足したことがわかりました。技術の向上だけでなく「読み聞かせ」の本質を学ぶ講座内容で、参加者が「読み聞かせ」についてより深く理解した様子がわかり、この講座の目的が充分達成されたと考えます。加えて「読み聞かせ」ボランティアの人口も多い現在、パフォーマンス的になっているのが現実です。「読み聞かせ」は本来は子供達が読書の喜びを獲得するための手段です。その中で系統だった学びの場が少なく、優秀な実力のある講師陣かつ内容が実践に即使える講座はあまりないので、今後もこのような内容の講座の必要性を感じました。アンケートでも、今後も講座の継続を望む声が多くありました。



手作り絵本製作風景



ふれあい手遊び・わらべうた講座風景

●団体概要

【設立年月】 2000年4月

【URL】 <https://www.oyakocenter.nagoya/>

【設立の経緯】 1971年子供たちが、健やかに成長できる場をつくりたいという願いのもとに、名古屋おやこ劇場を創立。2000年交易的な活動をより明確にし市民活動の場を広げるために、市内各所の拠点をひとつに統合して、特定非営利活動法人名古屋おやこセンターを設立。現在に至っています。

【目的】 この会は、子供に対して、文化活動、社会活動の機会の拡充と振興を図る事業を行うことにより子供の豊かな成長に寄与することにより初回全体の利益に貢献することを目的としています。

【構成】 ・会員構成（2019年度）大人105人 子供（3～18歳）32人
・主な構成員は親子あるいは母親 男女比 男：女 25%：75%
・「子育て支援事業」「子供の育ち支援事業」「舞台鑑賞事業」で事業を展開しています。



子供向け教材開発・普及活動への申請をお考えの方へ

子どもゆめ基金で何ができるの？

- ・開発したいアプリや Web ページを作成して、広く社会に提供することができます。企画立案は応募団体で行っていただきますが、実際のプログラミング等は外部に委託することもできます。
- ・開発した教材を普及するための費用も、助成期間中は利用することができます。助成期間が終了した後は、応募団体の責任で行っていただきます。

助成事例

出来ないから出来るへ！ 親子で学べるスポーツコーチングガイド！ Vol.2

スポカル実行委員会 <http://sports-guide.jp>



子供は、「体の動かし方のコツ」が分かると運動やスポーツがグンと上手になるものです。本教材では、ご家庭で活用できる運動のコツやポイント、上手く出来ない原因やその対処法を映像・テキストで解説するとともに、子供のスポーツ傷害や運動機能障害についても紹介しています。



子供が運動やスポーツを上手く出来ないのは、その子の運動神経が悪いからではなく、上手く体を使うコツを知らなかったり、体の使い方が間違っているからではないでしょうか。スポーツ少年団や部活動では、団体指導が優先され、個別の指導の機会が少ない現状があります。もし家庭で保護者が子供にきちんとアドバイス出来るようになれば、上手くなるチャンスは増え、スポーツが楽しくなり、体力向上にもつながると考え本教材を作りました。

主な対象者は、幼児から中学生くらいまでのお子さまをもつ保護者の方ですが、地域ボランティアの方や運動部を受け持つ顧問の先生、そして子供自身が見ても学べる教材になっています。内容は、かけっこ、逆上がりなどの基礎運動から、野球・サッカーなどのメジャースポーツを含め、11種60コンテンツ。また、近年多発している子供のスポーツ傷害や発達性協調運動障害に関しても、保護者がお子さまの体をチェックし、予防をサポート出来るよう収録しています。

注意すべきポイント

開発する教材に使う素材の著作権、教材の中で扱われる写真と関連する権利、さらに、子供たちの個人情報の扱いに留意が必要です。

下記の例を参考にしてください。

- ・素材の提供者（原著者）には、譲渡できない著作権者人格権があります。作成した教材を今後、団体の判断で修正するためには、その著作権者人格権を行使しないという契約をしておく必要があります。
- ・教材の中に写真がある場合、そこに写っている人の許諾を得ておく必要があります（肖像権等）。
- ・自由に投稿できるようなページでは、子供たちがいろいろな個人情報を書き込んでしまう可能性があります。第三者に悪用されない仕組みが必要です。

過去に開発された教材は下記 URL よりご覧になれます。
<https://yumekikin.niye.go.jp/link/index.html>



申請の主な流れ

ID申請

- ・電子申請システムを初めて利用される場合は、事前に ID の申請・発行手続きが必要です。子どもゆめ基金ホームページから電子申請システムに入り、ID 申請を行ってください。
- ・ID の発行は自動ではなく、職員が手作業で行っているため、土日祝日は発行できません。
- ・ID 申請の集中が予想される締切り間近は ID の発行に時間がかかりますので、余裕をもって申請してください。

電子申請 (企画書)

- ・申請した ID で電子申請システムにログインをし、必要事項を入力し申請を行ってください。
- ・**応募締切：2020年11月4日(水) 17時締切**

一次審査

- ・審査委員会による**一次審査（書面審査）**を行い、一次採否を決定します。
- ・採択・不採択の審査結果を【2020年12月中（予定）】に通知します。

電子申請 (申請書)

- ・**※一次審査で採択された場合のみ**
- ・申請した ID で電子申請システムにログインをし、必要事項を入力し申請を行ってください。

二次審査

- ・審査委員会による**二次審査（申請書による書面審査及びプレゼンテーション審査）**を行い、採否を決定します。
- ・採択・不採択の審査結果を【2021年4月上旬】に通知します。

交付決定

- ・採否結果をメールにてお知らせします（郵送による通知は行いません）。交付決定通知書または不採択通知書は、電子申請システムにて確認・ダウンロードしてください。
- ・申請額に対して決定額が減額となっている場合や交付条件が附されている場合がありますので、交付決定通知書の内容をよくご確認ください。

ミクロネシア諸島自然体験交流事業

- 事業期間／受入：令和元年6月16日（日）～6月25日（火） 9泊10日
派遣：令和元年7月29日（月）～8月8日（木） 10泊11日
- 実施場所／受入：東京都・長野県・島根県・広島県
派遣：マーシャル諸島共和国・ミクロネシア連邦（チューク州、ポンペイ州）・パラオ共和国
- 参加者／受入：10歳～14歳 マーシャル諸島共和国：24名、ミクロネシア連邦：48名、パラオ共和国：12名
派遣：小学校5年生～中学校2年生 64名
- 主催／独立行政法人国立青少年教育振興機構
- 後援／外務省・文部科学省・マーシャル諸島共和国・ミクロネシア連邦・パラオ共和国

●事業の目的

日本とミクロネシア諸島の国々の青少年の国際交流を通して、グローバル社会に対応した高い国際感覚を備えた青少年を育成することを目的としています。

●受入事業の日程

日程	プログラム内容
6月16日	日本到着・オリエンテーション
6月17日	スポーツ交流会・歓迎交流会
6月18日	上野動物園見学・松濤中学校訪問
6月19日	国会議事堂見学・各国大使館訪問
6月20日	各地方施設（長野県・島根県・広島県）に移動
6月21日	小学校訪問
6月22日	地方施設プログラム・ホームステイ
6月23日	ホームステイ・ホストファミリーとのさよならパーティー
6月24日	各地方施設出発、成田市内宿泊
6月25日	帰国

●派遣事業の日程

日程	プログラム内容
7月29日	参加者研修会
7月30日	グアム到着
7月31日	マーシャル諸島共和国・ミクロネシア連邦（チューク州、ポンペイ州）・パラオ共和国に移動
8月1～3日	自然体験・野外生活体験・異文化交流体験
8月4日	ホームステイ
8月5日	ホームステイ・ホストファミリーとのさよならパーティー
8月6日	グアムに移動
8月7日	日本に帰国
8月8日	合同学習成果発表会

●参加者の声

- ・日本とマーシャルの環境が違うので驚くことが多かったけど、水や食料の大切さを感じることができた。
- ・チュークに行って素晴らしい自然体験や外国の方との交流、初めて食べる物、どれも楽しむことができた一方で、海のゴミが多いことに気づいた。
- ・今まで海外に行ったことがなかったため、どのような文化や食べ物があるかわからなかったが、参加したことで「衣・食・住」全てを知ることができた。
- ・パラオの子は誰にでも優しく、すぐに仲良くなれる。言葉は通じなくてもジェスチャーなどで表現すると理解してもらえる。

【受入の様子】



【派遣の様子】



「体験の風をおこそう」運動[®]とは

近年、社会が豊かで便利になる中で、子供たちの自然体験、社会体験、生活体験などの体験が減少してきている状況を踏まえ、子供たちの健やかな成長にとって体験がいかに重要であるかを広く発信し、社会全体で体験活動を推進していくことを目的とした運動です。

「体験の風をおこそう推進月間」事業に参加しませんか。

体験の風をおこそう推進月間事業

体験の風をおこそう運動推進委員会（事務局：国立青少年教育振興機構）では、毎年10月を「体験の風をおこそう推進月間」と定め、事業統一日（令和2年度は10月24日（土））を中心に、全国各地で子供たちやその家族と一緒に体験できる機会と場の拡充及びその社会的気運の醸成に努めています。

そこで、全国の青少年団体等に呼びかけ、10月に「体験の風をおこそう」運動に賛同して実施していただける事業を募集しています。登録は、「体験の風」HP（<https://taikennokaze.jp/download>）より、要項をご確認の上、HP内の専用webフォームからご登録いただくか、登録申込書に必要事項をご記入した後、月間登録先メール（taikennokaze-suishin@niye.go.jp）またはFAX（03-6407-7699）にてご提出ください。令和元年度は523団体に参加いただき、1,815事業の登録がありました。是非、ご登録ください。

子ども体験遊びリンピック

体験の風をおこそう推進月間事業のうち、特に競技性のある体験活動を幼児、小学生、中学生、親子等を対象に実施する事業を「子ども体験遊びリンピック」として併せて実施しています。

※子ども体験遊びリンピックの事業を10月（推進月間）に実施する参加団体には、同委員会の松本零士委員長（漫画家）がデザインしたメダルと賞状をお送りします。



ガイドブック「体験・遊びナビゲーター」



国立青少年教育振興機構では、自然の中での体験や遊びを紹介したガイドブック「体験・遊びナビゲーター」を作成しました。ホームページからダウンロードできます。

<https://www.niye.go.jp/taikenasobi/>

「チラシ・ポスター」「のぼり旗」をご活用ください。

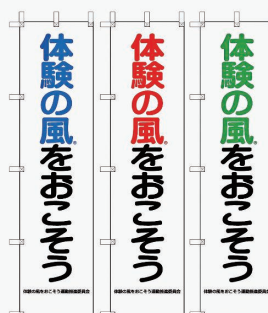
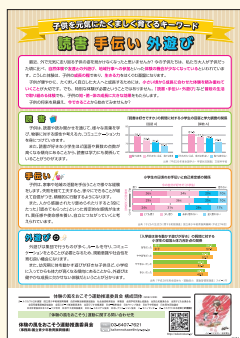
「体験の風をおこそう」運動の趣旨にご賛同いただける団体には、「チラシ・ポスター」「のぼり旗」を無料で配布しています。是非、事業での配布・掲示等にご活用ください。また、同運動のロゴマークも事業の開催案内に掲載する等ご活用いただいています。ご希望の場合は右ページ下部の「体験の風をおこそう運動推進委員会」までご連絡ください。



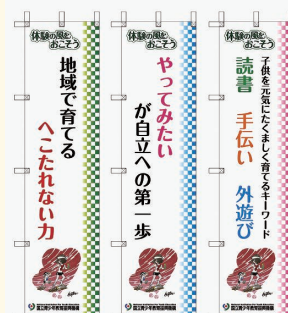
ロゴマーク



チラシ・ポスター



のぼり旗 ver.1



のぼり旗 ver.2

子供を元気にたくましく育てるキーワード

読書 手伝い 外遊び

最近、外で元気に走り回る子供の姿を見かけなくなっただと思いませんか？ 今の子供たちは、私たち大人が子供だった頃に比べ、**自然体験や友達との外遊び、地域行事への参加**といった**体験の機会が少なくなっている**といわれています。こうした体験は、子供の**成長の糧**であり、**生きる力**をはぐくむ基盤になります。

子供が健やかに、たくましく自立した大人へと成長するためには、**小さい頃から成長に合わせた体験を積み重ねていく**ことが大切です。でも、特別な体験が必要ということではありません。**「読書・手伝い・外遊び」**など**普段の生活で取り組める体験**でも、子供の**知・徳・体の成長に大きな効果**をもたらします。

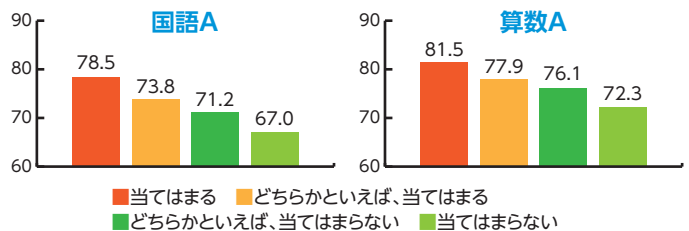
子供の将来を見据え、**今できることから始めてみませんか？**

読書

子供は、読書や読み聞かせを通じて、様々な言葉や物事に対する感性や考える力、コミュニケーション力を身につけていきます。

また、読書が好きな小学生ほど国語や算数の点数が高くなる傾向にあることから、読書は学力にも関係していることがうかがえます。

「読書は好きですか」の質問に対する小学生の回答と学力調査の関係



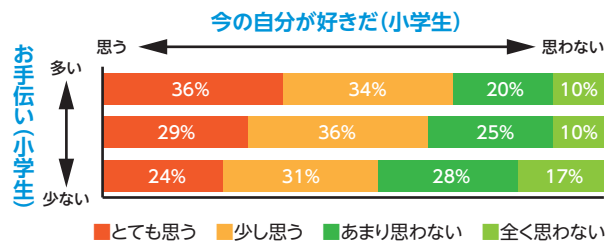
出典「平成29年度全国学力・学習状況調査」文部科学省

手伝い

子供は、家事や地域の活動を手伝うことで様々な経験をします。失敗を経て工夫すると、徐々にできるようになって自信が付き、積極的に行動するようになります。

また、人から感謝されたり褒められたりすると「役にたった」「認めてもらった」といった肯定的な感情が生まれ、責任感や使命感を養い、自立につながっていくと考えられています。

小学生の日頃のお手伝いと自己肯定感の関係



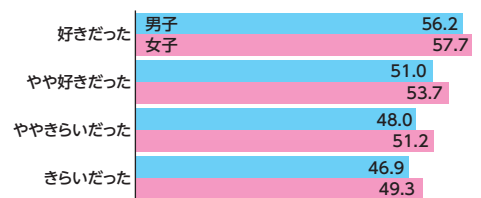
出典「子どもの生活力に関する実態調査」国立青少年教育振興機構(平成27年度)

外遊び

外遊びは集団で行うものが多く、ルールを守り、コミュニケーションをとることが必要となるため、規範意識や社会性を育む良い機会になります。

また、幼児期に体を動かす遊びが好きな子供ほど、小学校に入ってから体力が高くなる傾向にあることから、外遊びは健やかな成長に欠かせない体験だということが分かります。

「入学前は体を動かす遊びが好き」の質問に対する小学生の回答と体力合計点の関係



出典「平成29年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査」スポーツ庁

体験の風をおこそう運動推進委員会 構成団体

ガールスカウト日本連盟 国立青少年教育振興機構 自然体験活動推進協議会 社会通信教育協会 修養団 全国学校栄養士協議会 全国公民館連合会 全国子ども会連合会 全国児童養護施設協議会 全国スポーツ推進委員連合 全国ラジオ体操連盟 日本一輪車協会 日本キャンプ協会 日本子守唄協会 日本青年団協議会 日本スポーツ協会 日本スポーツ少年団 日本PTA全国協議会 日本ユースホステル協会 日本レクリエーション協会 ハーモニセンター ボーイスカウト日本連盟 [21団体]

「体験の風をおこそう」運動に関する問い合わせ先

体験の風をおこそう運動推進委員会

(事務局：国立青少年教育振興機構)

TEL 03-6407-7621 E-mail taikennokaze@niye.go.jp



<https://taikennokaze.jp/>



イメージイラスト：松本壽士

申請・採択状況

(4月1日現在)

令和2年度 活動区分別申請・採択状況 (一次募集分のみ)

活動分野	申請件数	採択件数	交付決定額 (単位：千円)
子どもの体験活動	3,981	3,376	1,349,600
子どもの読書活動	476	407	157,327
教材開発・普及活動	28	10	66,876
合計	4,485	3,793	1,573,803

令和元年度 活動区分別申請・採択状況

活動分野	申請件数	採択件数	交付決定額 (単位：千円)
子どもの体験活動	5,042	3,957	1,429,406
子どもの読書活動	671	524	178,194
教材開発・普及活動	31	10	52,426
合計	5,744	4,491	1,660,026

令和2年度 都道府県別申請・採択状況 (一次募集分のみ)

(単位：件)

都道府県	活動区分	申請	採択
北海道	体験活動	191	176
	読書活動	26	22
青森県	体験活動	38	29
	読書活動	6	5
岩手県	体験活動	40	28
	読書活動	0	0
宮城県	体験活動	30	26
	読書活動	8	6
秋田県	体験活動	18	18
	読書活動	4	0
山形県	体験活動	24	22
	読書活動	0	0
福島県	体験活動	41	33
	読書活動	6	6
茨城県	体験活動	55	49
	読書活動	2	1
栃木県	体験活動	79	61
	読書活動	14	10
群馬県	体験活動	49	37
	読書活動	2	1
埼玉県	体験活動	164	141
	読書活動	18	16
千葉県	体験活動	198	176
	読書活動	5	4
東京都	体験活動	575	474
	読書活動	93	83
神奈川県	体験活動	192	158
	読書活動	19	17
新潟県	体験活動	79	68
	読書活動	10	9
富山県	体験活動	26	22
	読書活動	0	0

都道府県	活動区分	申請	採択
石川県	体験活動	40	36
	読書活動	4	2
福井県	体験活動	21	19
	読書活動	3	3
山梨県	体験活動	58	47
	読書活動	5	4
長野県	体験活動	72	67
	読書活動	3	2
岐阜県	体験活動	54	46
	読書活動	1	1
静岡県	体験活動	72	58
	読書活動	7	6
愛知県	体験活動	108	98
	読書活動	8	6
三重県	体験活動	39	33
	読書活動	0	0
滋賀県	体験活動	36	35
	読書活動	8	7
京都府	体験活動	126	100
	読書活動	11	11
大阪府	体験活動	315	272
	読書活動	43	38
兵庫県	体験活動	140	124
	読書活動	19	15
奈良県	体験活動	66	60
	読書活動	13	13
和歌山県	体験活動	29	26
	読書活動	11	10
鳥取県	体験活動	13	12
	読書活動	5	5
島根県	体験活動	14	8
	読書活動	3	3

都道府県	活動区分	申請	採択
岡山県	体験活動	79	59
	読書活動	4	4
広島県	体験活動	38	30
	読書活動	2	2
山口県	体験活動	30	26
	読書活動	6	6
徳島県	体験活動	52	41
	読書活動	4	4
香川県	体験活動	25	21
	読書活動	5	5
愛媛県	体験活動	89	78
	読書活動	6	6
高知県	体験活動	33	28
	読書活動	5	5
福岡県	体験活動	167	133
	読書活動	23	22
佐賀県	体験活動	36	33
	読書活動	20	12
長崎県	体験活動	41	41
	読書活動	6	5
熊本県	体験活動	44	38
	読書活動	11	11
大分県	体験活動	21	16
	読書活動	2	2
宮崎県	体験活動	63	59
	読書活動	4	3
鹿児島県	体験活動	242	200
	読書活動	21	14
沖縄県	体験活動	19	14
	読書活動	0	0
合計	体験活動	3,981	3,376
	読書活動	476	407

子どもゆめ基金へのご協力を

子どもゆめ基金は、国と民間が協力して青少年教育に関する団体が行う子供の体験活動や読書活動などの進行を図り、子供の健全育成に寄与するものです。

このため、個人、企業からもご協力をいただき、基金の拡大を図り、幅広くその活動を支援することにしています。下記の募金口座にて募金を受付しております。広く皆様のご理解とご支援を何卒お願い申し上げます。

なお、子どもゆめ基金に対するご寄附は、税制上の優遇措置を受けることができます。

振替口座

□座番号	00150-5-371382
□座名義	子どもゆめ基金

※振込に便利な振込払込書を中心に綴じておりますので、ご利用ください。

銀行口座

銀行名	三菱UFJ銀行 渋谷支店
□座番号	普通預金 3025103
□座名義	子どもゆめ基金

子どもゆめ基金への支援

検索

「子どもゆめ基金」へご寄附いただいた皆様

令和元年度に「子どもゆめ基金」へご寄附いただいた主な方々です。

(あいうえお順・敬称略)

株式会社伊藤園	特定非営利活動法人 思いをつなぐ会
コカ・コーラボトラーズジャパン株式会社	シンソー印刷株式会社
株式会社高野電気商会	BayWalkCommunity はこだて 小澤 美幸
株式会社八洋	NPO 法人ホワイトベル
箕浦 真生	村井 悠治
ライフガード株式会社	

子どもゆめ基金ガイド2020

2020年8月発行

編集 独立行政法人国立青少年教育振興機構子どもゆめ基金部

発行 独立行政法人国立青少年教育振興機構

〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町3番1号

電話 0120-579081 (フリーダイヤル)

URL <https://yumekikin.niye.go.jp/>

E-mail yume@niye.go.jp

全国の国立青少年教育施設のご案内

国立青少年交流の家

- 1 国立大雪青少年交流の家 (北海道美瑛町)
- 2 国立岩手山青少年交流の家 (岩手県滝沢市)
- 3 国立磐梯青少年交流の家 (福島県猪苗代町)
- 4 国立赤城青少年交流の家 (群馬県前橋市)
- 5 国立能登青少年交流の家 (石川県羽咋市)
- 6 国立乗鞍青少年交流の家 (岐阜県高山市)
- 7 国立中央青少年交流の家 (静岡県御殿場市)
- 8 国立淡路青少年交流の家 (兵庫県南あわじ市)
- 9 国立三瓶青少年交流の家 (島根県大田市)
- 10 国立江田島青少年交流の家 (広島県江田島市)
- 11 国立大洲青少年交流の家 (愛媛県大洲市)
- 12 国立阿蘇青少年交流の家 (熊本県阿蘇市)
- 13 国立沖縄青少年交流の家 (沖縄県渡嘉敷村)

宿泊体験学習に!

スポーツ合宿に!

研修に!

講演会に!

ミーティングに!

青少年の体験活動をサポートする
国立青少年教育施設が全国に28か所

国立青少年自然の家

- 1 国立日高青少年自然の家 (北海道日高町)
- 2 国立花山青少年自然の家 (宮城県栗原市)
- 3 国立那須甲子青少年自然の家 (福島県西郷村)
- 4 国立信州高遠青少年自然の家 (長野県伊那市)
- 5 国立妙高青少年自然の家 (新潟県妙高市)
- 6 国立立山青少年自然の家 (富山県立山町)
- 7 国立若狭湾青少年自然の家 (福井県小浜市)
- 8 国立曾爾青少年自然の家 (奈良県曾爾村)
- 9 国立吉備青少年自然の家 (岡山県吉備中央町)
- 10 国立山口徳地青少年自然の家 (山口県山口市)
- 11 国立室戸青少年自然の家 (高知県室戸市)
- 12 国立夜須高原青少年自然の家 (福岡県筑前町)
- 13 国立諫早青少年自然の家 (長崎県諫早市)
- 14 国立大隅青少年自然の家 (鹿児島県鹿屋市)



国立オリンピック記念
青少年総合センター
(東京都渋谷区)

子どもゆめ基金についてのお問い合わせ

TEL : 0120-579081

E-mail : yume@niye.go.jp URL : <https://yumekikin.niye.go.jp/>



National Institution For Youth Education
独立行政法人 国立青少年教育振興機構